

港ユネスコ訪問

—生徒感想抜粋—

Y.Y

まずお聞きしたのは、第二次世界大戦中の体験談です。当時の日本はとても貧しく、紙や鉛筆でさえ手に入らなかったとおっしゃっていました。私たちの日常生活がどれだけ幸せなのかがありました。また、家族が戦死した、ということ涙ぐみながらも話して下さり、家族が毎日そばにいてくれる温かさを感じました。

また、戦前のお話もしてくださいました。戦前、選挙権は女性には与えられていなく、自分の望んでいない政治家が総理大臣になるといったようなこともあったようです。私は選挙権のお話を聞いて、今の日本は十八歳以上の男女に選挙権が認められていることが平和な世の中を創り始める良い機会であると思いました。政治家を通じて国に自分の意見を伝え、自分たちが考え望む世の中を創ることが、戦争をなくし平和になるのだと思います。

より良い世の中、平和の砦を築くために小さなことでもいいから初めていくことが、今の私たちにできることだと思いました。

H.T

なかでも特に心に残ったのは、「日本は第二次世界大戦で世界初の被爆国となり深い傷を負ったが、その反面、我々も一加害者であるということを忘れてはならない。」というお言葉です。被害側と加害側、どちらも経験した日本だからこそ、どんな歴史にも背けることなく向き合って、世界平和を希求する義務があると思います。そのためには、私たち和解世代が、歴史を正しく理解し、学び続けることが大切です。そして高井さんのように後世にしっかり語り継いでいきたいです。

今回の訪問を通して、今までどこか漠然としていたユネスコ委員としての務めをはっきりさせることができました。小さなことかもしれませんが、私たちにもできることはきっとあるはずです。「戦争は人の心中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」まずはお互いを広い心で理解し、尊重し合うことが世界平和への第一歩なのではないでしょうか。幅広い視野と豊かな心を持つことのできる人になりたいと強く思います。

